

事業所名

あすなるクラブ (児童発達支援事業)

支援プログラム (参考様式)

作成日

8

年

3

月

13

日

法人 (事業所) 理念	障害があっても生まれ育った地域の中でその人なりの役割を持ち生活していけるよう支援します。 これらの支援を幼児期から学童期、成人期に応じ一貫した支援を行います。		
支援方針	本人力を育てることを目的とし、手を掛けずに目を配る気づきの支援から、本人に相応しい自立の形を目指す。 なぜできない?視点ではなく、どうしたらできる?特性に応じた配慮と工夫から、本人なりの「できる」を目指す。		
営業時間	8 時 30 分から	17 時 30 分まで	送迎実施の有無 あり <input type="radio"/> なし <input checked="" type="radio"/> 応相談
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	くうねるあそび 美味しく一生懸命食べる、しっかり眠る、体を使って思い切り遊び込むことを生活の軸として、必要な支援を行う。 家庭と連携し、日々の健康観察を丁寧に行いながら、生活リズムの整えを行う。	
	運動・感覚	粗大運動 感覚統合の機能向上を目的とし、遊具での遊び込み、サーキット運動、リズム運動、感覚遊び、関り遊びなどを繰り返し行う。 微細運動 座位が保てる状態で、目と手の協応を狙いとした机上課題や遊びを取り入れ、学びの積み重ねを支援する。	
	認知・行動	集団生活、集団参加 生活の流れ、見通しを、情報として取りに行く (自分で確かめる) 習慣づけを行う (スケジュールの固定場所明示)。 聞き取りやすい担任の指示、見えやすい集団の風景 (動き) から、気づきと自発的動きに繋げる。	
	言語 コミュニケーション	発信力 本人と向き合い、思いを言語化、代弁し、伝わる経験から発信力を高め、双方向コミュニケーションへと繋げていく。	
	人間関係 社会性	距離感、協同作業 物を介しての遊び、貸し借り、互いの協力が必要な動作 (作業) などを通じて、社会的ルールやマナーを学ぶ。	
家族支援	育ちの先に見通しを持ち、思いの共有を図る。 家庭内において必要な支援、できる支援の形を、一緒に考え協力していく。	移行支援	移行先の環境をよく知った上で、 ミスマッチにならないよう、できる支援の形を提示していく。
地域支援・地域連携	地域の公園、社会資源の利用など積極的に行い、広く「知ってもらう」ことを大切にする。	職員の質の向上	日々の振り返りをもとに月1回職員会を行い、 支援方法、方向性についてなど、確認を行う。 研修を受けた職員は、その研修内容を、即時全体に周知する。
主な行事等	親子参加…歯の話、夏祭り、親子遠足、クリスマス会、生活発表会、卒園式 児童のみ…ハロウィン、節分ほか 母茶会 …定期的に保護者の交流、情報交換の場を設けている。		